

教師と生徒間の相互理解・厚意ある関係性について - 対訳

Children need to know others – including important adults in their lives – and to be known.

Here the term ‘know’ is used in the strong sense, as when we speak of knowing a friend.

Children must be allowed to understand that the school exists for them; that it is their rightful place – a place in which they experience adults who respect and value them as individuals in everything they are and do.

Children must be made aware that what they are or do has great importance to the teacher, and they should experience acceptance and respect as people in their own right.

A teacher gives each child this feeling of worth as she listens carefully to what the child says about his work, his feelings, reason for doing things.

It shows in the serious respect given to what the child says, even when the adult thinks the child is mistaken.

It is seen in truly constructive criticism.

In every situation in life, and at every age, personal relationships based upon genuine interest and real respect are of the great importance to growth.

If teachers and children are to work together at learning in a truly productive fashion, personal relationships marked by understanding and affection are clearly essential.

Where these exist, difficulties of all kinds are less likely to occur.

But such relationships never simply happen.

They spring from the continually developing skill of the teacher in responding to each child in accordance with his or her unique personality.

They demand awareness and hard work.

生徒達は、自分の人生に関わる大切な大人達を含め、他の人達をよく知ることが大事である。また自分が他の人達に知ってもらうことも大事である。

ここで“知る”という言葉は、友達を知るという場合のように、深い意味において使われている。

生徒達に『学校という場所が自分達のために存在する。』ということを知ってもらわなければならない。つまり学校とは、自分の存在や行動の全てに対し尊重し大事にしてくれる大人達と交流できる場所であるということである。

生徒達は、自分の存在や行為が教師にとって大変重要であるということを知覚しなければならないし、また人権をもつ一人間として受け止めてもらい、尊重される体験をしなければならない。

教師は、生徒の取り組み、感情、行動の理由について注意深く耳を傾けることで生徒達が教師にとって大切な存在であるという気持ちを一人一人の生徒達に伝えるのである。

それは、例えその子の考えが間違っていると思われる時であっても、子供の言うことに真剣に敬意を示すことでもある。

批判であったとしても、実際には発展していくものである。

生徒達の人生のあらゆる状況において、また全ての年齢において、教師が誠意を持って関心を示し、心から敬意を表すことを踏まえた人間関係こそ、子供の成長にとって最も重要である。

教師と生徒達が、本気で学習の効果を発揮していくための共同作業をする場合、お互いを理解し合い、厚意ある人間関係を築いていくことが明らかに不可欠である。

このような関係があるところでは、どんな諸問題も生じることはほとんどないだろう。

ただし、このような関係は単に生まれるものではない。

それは、その生徒だけが持っている個性に応じて対応する能力を教師が絶えず磨き育てることから始まる。

そのために多くのことに気づいていかなければならないし、懸命に取り組んでいかなければならない。